

海外女性研究者ロールモデル講演会

「フランスの女性科学者がワークライフバランスを保つための機会と制約」

今年度より農環研が採択された文部科学省の「女性研究者支援モデル育成」事業の一環で、フランス国際農業研究推進センターの女性研究者ルケット博士 (Dr. Delphine Luquet) を10月7日にお招きし、研究所の労働環境やご自身の1週間の生活についてお話してい



講演するフランスのルケット博士

いただきました。国策による子育て支援、結婚にこだわらない家族形態、男性によるサポートなどの社会的背景のもと、女性研究者採用のためのポジティブ・アクションなどを行っていないにもかかわらず、研究所の若手研究者の男女比はほぼ1対1であること、子育てと研究とを両立させるためには、研究所や夫の支援を受けるだけでなく、自分の努力も大事であること、それでも、子育てや趣味を楽しんでいることなどをわかりやすく話していただきました。私達がフランスの子育て事情やルケットさんの講演の要約を日本語で事前に紹介し、また、ルケットさんの講演の後に通訳を入れたため、40分近くにわたる活発な質疑応答が行われました。全職員の1割以上、女性研究者の8割近くが参加したこの講演会では、ルケットさんのお話に皆興味津々で、今後もこのような催しに参加したいとの声が多数寄せられました。

(企画戦略室 岡田 浩明)

大学および高校における出前授業

文部科学省の「女性研究者支援モデル育成」事業の一環で、当所の女性研究者が大学などを訪問し、研究内容や自身の経歴について講演することによって、研究者という職業の魅力を女子学生に紹介するという活動を始めました。今年度は、京都大学、東京農工大学、茨城県立水戸第二高等学校および東京都立小石川中等教育学校で開催しました。研究者といえば大学の教授などしか身近にいない大学生や大学院生には、独立行政法人機関の研究者をキャリアパスとしてアピールでき

たこと、高校生には、実験材料の生物などを実際に見せることで、具体的な研究活動に興味を持ってもらえたことなど、私達には収穫がたくさんあり



水戸二高で授業する野口主任研究員

ました。一方で課題も出てきました。例えば、女性研究者支援活動とはいえ、講演者も参加者も女性のみという設定は困難であり、また、研究紹介と女性支援とを結びつけた内容では講演しづらいことなどです。今後は、女性のみならず男性研究者にも活動に参加してもらうこと、研究内容だけでなく、職場としての独立行政法人研究機関の魅力についても力を入れて学生さんに紹介することを検討しています。

(企画戦略室 岡田 浩明)